

冬期間の無加温ハウスを利用したレタスの栽培法

福島県農業総合センター 作物園芸部野菜科

部門名 野菜 - レタス - 作物栄養、作型・栽培型
担当者 二階堂英行・佐藤睦人・佐久間秀明・大和田清三

新技術の解説

1 要旨

夏秋果菜類栽培等の施設を有効利用することを目的に、無加温ハウス(内カーテンを装備)において12～3月収穫のレタス栽培を検討した。その結果、品種選定により、クリスピーヘッド(玉)レタス、リーフ(葉)レタス及びコス(立)レタスのすべてで栽培が可能であり、冬期間の補完作物となる。

(1) 栽培方法

- ・は種は10月上旬～11月下旬に行い(128穴セルトレイにより育苗)、11月上旬～1月上旬に定植する。
- ・施肥量は10a当たり窒素成分で15kg程度とする。
- ・栽植様式は畦幅60cm、条間45cm、株間30cmの2条植黒マルチ栽培とする。
- ・12月上旬から内カーテンを使用(気温25℃を目安に開閉)し保温する。
(表1、図1～4)。

(2) 11月上旬の定植では、リーフ(葉)レタス>コス(立)レタス>クリスピーヘッド(玉)レタスの順に収穫となる。それぞれの収穫時期の目安は、リーフ(葉)レタスが12月下旬～1月上旬、コス(立)レタスが1月上旬中頃、クリスピーヘッド(玉)レタスが2月上旬中頃である(表1)。

(3) 1月上旬の定植では、収穫時期の目安はリーフ(葉)レタスが3月中旬、コス(立)レタスが3月下旬頃である(表1)。

(4) パイプハウス及び内カーテンをすでに所有している場合、導入コストは1a当たり12,300円程度である(表2)。

2 期待される効果

- (1) 夏秋果菜類の後作としてパイプハウスの有効利用が図れる。
- (2) 冬期間の所得確保ができる。
- (3) 既存パイプハウスを用いた場合は、無加温栽培のため、低コストである。

3 適用範囲

無加温ハウスで内カーテン内が最低 - 2℃以上を確保でき、冬期間パイプハウスが維持できる地域

4 普及上の留意点

- (1) 内カーテンを装備した無加温パイプハウスでの栽培結果であるが、12月収穫の作型や地域によって最低気温 - 2℃を確保できれば小トンネル等による保温でも栽培可能となる。
- (2) 施肥量は、前作の残肥が影響するため、施肥前に土壌診断を行い判断することが望ましい。
- (3) 虫害ではネキリムシ、ハモグリバエ及びナメクジ等、病害では灰色かび病、菌核病及び斑点細菌病等の発生が考えられるため、適宜適正な防除に努める。
- (4) 前作や品種によって、発生する病害虫が異なることがある。

具体的データ等

表1. 栽培暦

レタスの分類	10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
葉 (リーフ)	—			—			—			—			—			—		
立 (コス)	—			—			—			—			—			—		
	—			—			—			—			—			—		
	—			—			—			—			—			—		
玉 (クリスプヘッド)	—			—			—			—			—			—		



注) : 播種、 : 定植、 : 収穫、   : 内カーテン展張

表2. 資材費の目安(アール当たり)

品目名	金額(円)	備考
育苗代	2,143	種子、セルトレイ、培土、液肥
肥料代	4,736	化成肥料
農薬代	1,166	定植時2種類、生育時3種類
資材代	4,250	マルチ、灌水チューブ
計	12,295	-



図1. 緑色系リーフ収穫期
(会津若松市)

撮影: 平成19年12月15日

注) パイプハウス、内カーテンは既存のものを使用するとして算出。



図2. 赤色系リーフ(所内)
撮影: 平成19年2月8日



図3. コス(所内)
撮影: 平成19年3月19日



図4. クリスプヘッド(所内)
撮影: 平成19年2月8日

その他

1 執筆者

二階堂 英行

2 主な参考文献・資料

- (1) 平成18年度普及に移しうる成果「南東北地域に適する寒締め新規品目」
- (2) 平成17年度参考となる成果「寒締めに適するレタスの検索」
- (3) 平成17年度参考となる成果「無加温ハウスに適するレタス類の検索」
- (4) 平成18、19年度福島県農業総合センター試験成績概要(2007、2008)